

前奏 黙想	祈 禱
頌 栄 539 あめつちこぞりて	讃 美 歌 529 ああうれし、わが身も
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 詩編 69:3	主の祈り 564
ローマの信徒への手紙 15:4b~6	頌 栄 544 あまつみたみも
讃 美 歌 169 きけよや、ひびく	祝 禱
説 教 『神を喜び賛美する教会』	後 奏
長崎 哲夫 牧師	

ローマ書は、Iテサロニケ・ガラテヤ・フィリピ・I、IIコリント・フィレモンの各書と共にパウロの直筆で、ルターはこの書が福音主義的教理全体を簡潔に把握し、旧約聖書への入り口とした。それ故我々はこれを学び、常に聖書に精通するべきと言う。

その一例をローマ書一章で辿れば、福音はイエス・キリストの人格(3)で、信ずる者全てに救いを齎す力(16)、神の義を啓示するもの(17)である。ならば教会は、神に愛され、神に召され、聖なる者の群である(7)。今朝読まれた御言は、キリストの福音あるいは信仰者の生活全般にわたりローマ教会への具体的な勧告(14:1-15, 13)である。その一つに、15:1の小見出しに、「自分ではなく、隣人を喜ばせる」があり、本文で「わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めない」と指導する。特に、食事や召使のあり方、日を数えること等に互に、強い者は、弱い者に対して負目と義務があるとの語りかけである。強い者には、「信仰の弱い人を受け入れよ」(14:1)とある。パウロは、自分の弱さを徹底的に体験した人で、弱さの極みでキリストの恵みに出会い、充滿され、遂にこれを誇る者、強い者とされた(IIコリ 12:5)人だ。

同時に、「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜び」(14:17)であり、互いは支え合い、向上に努め、信仰を強め合い、を勧めている。かつてパウロは、キリストの態度を「フィリピ 2:6~9」を模範とすることを勧めたことがある。キリストは、十字架に至るすべての過程で、自己満足を求めず、徹頭徹尾謙遜と自己卑下の故に栄光の主を見上げた方だと(詩 69:31)。主は神の形を棄て、僕の姿となり、人と等しくなられた。また、主は神をそしる者のそしりをご自身に引き受け、担われた。

信じる者の福音信仰は、このイエス・キリストと一致することなのだ。それによって、信仰者に神の救いへの希望とキリストにあり続ける忍耐と、義とされ平和を得ることによる慰めを証しする者とされる(IIコリ 1:6)。最早、彼は神の前の義なる生活にこの慰め以外他のもは不要であり、その慰めにおいて十分満足すべきで、実に「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」(5:4)。

この一致により、両者は互いに、自分自身を喜ばせる(気に入る、歓心を買う、満足させる)ために生きるのではなく、先ず神を褒め讃えるものとされる。この一致は、弱さと強さの一致ではなく、教会において神を褒め奉ることを許される信仰の一致と神を讃美することにおいて信仰の成就のために互いが励まし合うことである。「心を合わせ、声をそろえて」(15:5)礼拝する者の決定的な讃美する姿である。

かくして、パウロは是までの弱い者議論を終結して、「神への讃美」をもってこれを締め括ろうとしている(16:25)。

(長崎哲夫牧師 説教要旨)

(※次回長崎牧師に説教していただくのは、11/26です)

9/20(水)1:00~3:00 教会カフェ(飲み放題のお茶・コーヒーと手作りケーキで 300 円)、皆さん気軽におしゃべりに来て下さい。9/24(日)2:30~山梨分区委員会(日下部教会)。9/27(水)11:00~12:00 聖研・祈禱会、12:00~2:00 カフェランチ(300 円)。牧師の動き:9/25(月)午前は山梨英和学院との懇話会、午後は分区教師会。月報「いき」9月号ができました。原稿募集中です。よろしくお願ひします。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。